

2024年2月26日

2023年度聖路加国際大学大学院看護学研究科修士論文

師長が行う患者ラウンドの病棟マネジメントへの活用と意義  
—半構造化インタビューによる複数事例研究—

Significance and Application of Nurse Manager Intentional  
Rounding in Unit Management:  
A Multiple-Case Study Using Semi-structured Interview

21MN308

吉部恵理子

## 要旨

【目的】本研究の目的は、看護ケアのフロントラインの一つである病棟の師長が患者ラウンドを行う目的や意義、方法、および得た情報をどのように病棟マネジメントに活かしているかを記述し、師長が行う患者ラウンドの病棟マネジメントにおける意義、および病棟における看護ケアの質への影響について考察することである。

【方法】分析的一般化を目的に、半構造化インタビューを用いた Yin の multiple-case design を用いた。7:1入院基本料を算定している急性期病院の一般病棟の師長相当の役職を担う者で通常業務として患者ラウンドを実施している者、かつ5年以上の師長経験を有するものとした。

【結果】研究参加者は7名、師長としての経験年数は5~17年（中央値9）、これまでに師長として経験した部署数は2~6部署（中央値3）であった。インタビュー内容を統合した結果、{師長らの患者ラウンドの目的は、{患者の目線で物事を捉える}、{患者の状態の把握}、{管理者としての責任を果たす}、{患者に安心してもらう}であった。これらの目的を達成するために、自部署に入院している患者の特徴や、スタッフの構成などを含めた、部署の状況を踏まえて、状況により、限られた時間でラウンドする患者を選定していた。師長らは、患者ラウンドを重要視しており、実施する曜日、時刻、所要時間などについて、状況に応じて柔軟に調整しながらラウンドする機会を捻出していた。師長らが、患者ラウンドで得ている情報は、《治療や療養に関する患者の経験や思い》、《看護ケアが適切に行われているか》、《組織の秩序》3つのカテゴリに統合された。そして、師長らが患者ラウンドで得た情報を活かした病棟マネジメントは、【患者のアドボケータとなる】、【患者にとって最善のケアを実施する】、【部署内外のネットワークを駆使する】、【課題解決のための部署内システムを構築する】、【スタッフの相互作用を生みだし人材を育成する】、【信念をもって倫理的課題の解決をやり抜く】、【効果的な病床管理を実践する】の7つのカテゴリに統合された。

【結論】師長は、患者ラウンドを重要視し、患者を選定し機会を捻出しながら柔軟に実施していた。師長が行う患者ラウンドと、それを活かした病棟マネジメントの意義は、患者中心性を維持し、看護の質を保証するために、顧客関係管理(CRM)を達成すること、およびリーダーシップを発揮して倫理的課題を解決することであることが示唆された。CRMにおいては、師長が看護提供の“現場”を直視することで課題抽出につながる一次情報が収集でき、臨床実践家でも師長が看護ケアの適切性を見極めることが重要である。さらに、CRMが持続するためには、人材の育成が必要であることが示唆された。